

50km ~ 100km走ったら 必ずトルクレンチで増し締めを!

規定トルクで締め付けを行っても、走行すると必ず緩みが発生します。タイヤを交換してから50kmから100km走行後、トルクレンチを使って、規定トルクでの増し締めを必ず実施してください(トルクレンチを保有していない場合には、最寄りの整備工場など、トルクレンチが備わっているところで実施しましょう)。

※増し締め作業を行う場合には、道路上で行うのは危険なのでやめましょう。



タイヤ交換後の注意点
50~100km走行後にはトルクレンチを使って、規定トルクでの増し締めを必ず実施

タイヤ取付けの状態 ~日常点検の実施の方法(抜粋)~

ディスク・ホイールの取付状態について、ホイール・ボルトの折損、ホイール・ナットの緩み等がないかを点検ハンマなどを使用して点検します。なお、ISO方式のホイール・ナットの緩みの点検にあつては、ホイール・ナット及びホイール・ボルトへのマーキングを施し、マーキ

ングのずれを目視により確認する方法又はホイール・ナットの回転を指示するインジケータを装着し、インジケータ相互の指示のずれやインジケータ連結部の変形を目視により確認する方法に代えることができます。

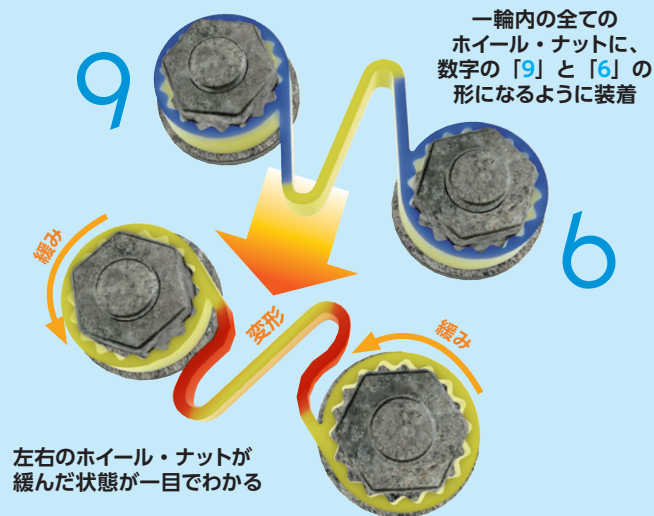
ホイール・ナットの緩みを見える化へ

規定トルクで締め付けたホイール・ナットに「マーキング」することや「ホイールナットマーカ」を取り付けることで、走行等によりホイール・ナットが緩んだ状態を可視化できます。確実な日常点検の実施方法を社内で再徹底しましょう。

ホイール・ナットへのマーキング例



ホイールナットマーカの装着例 (ホイールナット回転指示インジケータ(ISO方式)装着の場合)



「インジケータ」は大型車メーカー各社の販売店にお問合せ願います。

参考：一般社団法人日本自動車工業会資料



https://www.jama.or.jp/operation/truck-bus/wheel_fall_off/car/index/indicator.pdf

JTA 公益社団法人 全日本トラック協会

〒160-0004 東京都新宿区四谷三丁目2番5 TEL.03-3354-1009 (代) ホームページ <https://jta.or.jp>

ストップ!! 車輪脱落事故



~タイヤ交換作業の手順と方法~

車輪脱落を防ぐための具体的なタイヤ交換作業の手順をご紹介します。またタイヤ交換後の増し締めや、日常点検及び定期点検の確実な実施に努め、車輪脱落事故防止の徹底をお願いします。



タイヤ交換作業の手順と方法を動画でわかりやすく公開中。ホームページをご覧ください。

ストップ! 車輪脱落事故

タイヤ交換作業の手順と方法



https://jta.or.jp/member/anzen/datsurin_torikumi.html

JTA 公益社団法人 全日本トラック協会

手順①

ハブ面

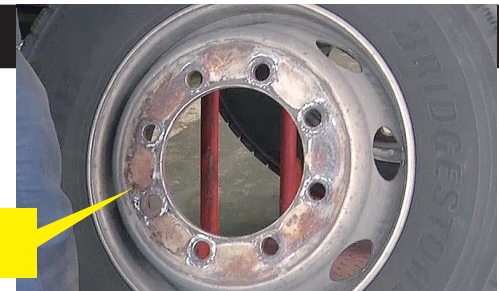
しっかり点検



手順②

ディスク・ホイール

念入りに清掃



手順③

ホイール・ボルト

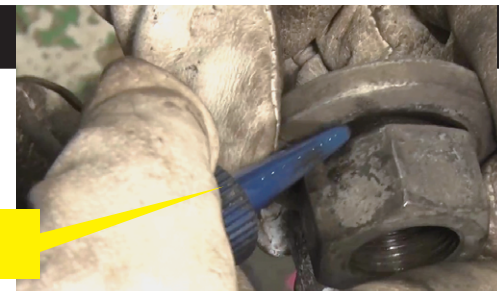
ていねいに確認



手順④

ホイール・ナット

忘れずに給脂



手順⑤

タイヤの取り付け

トルクレンチで正しい締め付け



手順① ハブ面


しっかり点検



ハブ面

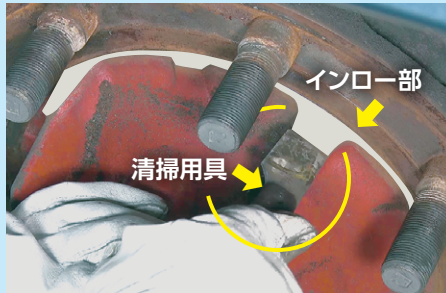
著しい摩耗や損傷がないかを点検します。

清掃・確認



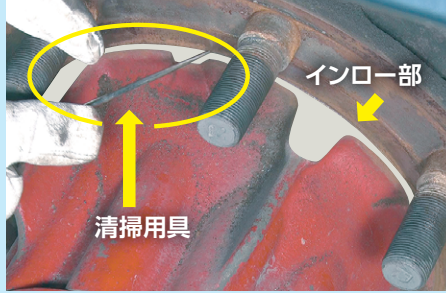
清掃用具

ハブのはめ合い部(インロー部)も忘れずに掃除!



インロー部

清掃用具



インロー部

清掃用具

金ブラシなどでディスク・ホイール取付面のさび、ゴミ、泥、追加塗装等の異物を取り除きます。清掃後の点検・確認で異状があれば交換が必要です。

グリスの塗布




インロー部

ハブのはめ合い部、いわゆるインロー部に規定のグリスを薄く塗布します。

手順② ディスク・ホイール

点検


①ホイール・ナットの当たり面



当たり面

亀裂や損傷、摩耗の有無


②溶接部



溶接部

亀裂や損傷

③ホイール・ボルト穴や飾り穴、ハブへの取付面




亀裂や損傷

飾り穴

ホイール・ボルト穴

ハブへの取付面

④ディスク・ホイール合わせ面



ディスク・ホイールの合わせ面

亀裂や摩耗、損傷がないかを点検します。

念入りに清掃・確認



清掃用具


金ブラシなどでホイール・ナットの当たり面、ハブ取付面のさび、ゴミ、泥、追加塗装等を取り除きます。清掃後の点検・確認で異状があれば交換が必要です。

手順③ ホイール・ボルト

点検



ホイール・ボルト



錆、つぶれ、やせ、かじり、伸び、亀裂、損傷の点検

つぶれ やせ、かじり 伸び

亀裂、損傷、著しいさびがないか、また、ねじ部につぶれ、やせ、かじり等の異状がないかを点検します。

ていねいに確認・清掃



清掃用具

ホイール・ボルトのねじ部等のさび、ゴミ、泥、追加塗装等を金ブラシなどで取り除きます。清掃後の点検・確認で異状があれば交換が必要です。

潤滑剤の塗布

ホイールとの当たり面には塗布してはいけません。



潤滑剤の塗布

ホイールとの当たり面

エンジンオイルなどの潤滑剤をねじ部に薄く塗布します。

CAUTION このような状態は**交換が必要です!** 過去の車輪脱落事故の事例(国土交通省)

著しいさびによる
ディスク・ホイールの状態



著しいさびによる
ホイール・ナットの状態



潤滑剤の塗布が見られず、ナットとワッシャーがスムーズに回転していない状態



手順④ ホイール・ナット

点検

新品から一定期間(4年目安)経過した場合は入念に点検!



ホイール・ナット

亀裂、損傷、著しいさびがないかを点検します。

清掃・確認



清掃用具

ホイール・ナットのねじ部等のさび、ゴミ、泥、追加塗装等を取り除きます。清掃後の点検・確認で異状があれば交換が必要です。

忘れずに給脂(塗布)



潤滑剤の塗布

エンジンオイルなどの潤滑剤をねじ部、ホイール・ナットとワッシャーの間の摺動部に薄く給脂(塗布)します。

ワッシャーの回転を確認



ホイール・ナット

ワッシャー

ワッシャーがスムーズに回転しない場合はワッシャー付きホイール・ナットの交換が必要です。

手順⑤ タイヤの取り付け

取り付け

センタリングガイドを活用!



センタリングガイド

センタリングガイドは、タイヤ脱着時にホイール・ボルトのねじ山を傷つけないよう、また、装着時にセンタがとりにくいよう、ホイール・ボルトに装着する道具です。

ホイール・ナットは、取り付けしていた元の位置のホイール・ボルトに取り付けます。

インパクトレンチによる仮締め



締め付けは、対角線順に2~3回に分けて行います。規定トルクより強く締めてはいけません。

規定トルクの設定

ホイールナット締め付けトルク	
ディスクホイール 取付け方式	締め付けトルク N・m(kgf/cm)
ISO-8本ボルト(平面)	550~600(5500~6000)
ISO-10本ボルト(平面)	550~600(5500~6000)
ISO-6本ボルト(球面)	400~480(4000~4800)
ISO-8本ボルト(球面)	550~600(5500~6000)

ねじ部および下部部位へエンジンオイルを塗布してから締め付けてください。
ISO方式: ホイールナットとワッシャー間
JIS方式: ホイールナットの球面座部
82685-E0N21

締め付けトルクは、運転者席側ドア付近の「締め付けトルク」表で確認します。



トルクレンチで正しい締め付け



規定のトルクで締め付けます。ISO方式では左車輪も「右ねじ」です。